

# 長中だより



第10号（平成29年10月12日発行）発行者 校長 小貫 崇明

## 【10月の生活目標】

・進んで校内行事に参加し、互いの友情を深め充実した学校生活を送ろう。  
(体育祭、文化祭等)

## ○岩瀬支部中体連新人総合大会～新たな戦いの始まりです～

9月27日（水）～29日（金）に行われました岩瀬支部中体連新人総合大会において、長沼中学校の1、2年生がそれぞれの競技で頑張りました。3年生が引退した後、それまでできていたあたりまえのチームワークや試合運び、そして個人の技術など、思い通りにならないことも多かったと思います。しかし、今回の新人戦は来年6月の本番（総合大会）に向けてのスタートに過ぎません。新たな戦いの始まりであり、これから様々な大会や試合を経て、そのたびに何かを学ぶ姿勢で切磋琢磨していけば、きっと本番では今回よりも良い結果が出せるものと思います。団体、個人の主な結果は以下の通りです。

- ・バスケットボール男子・・・・・・・・・・第3位
- ・卓球女子団体・・・・・・・・・・第3位
- ・ソフトテニス 個人

男子 大森世楠・丸山大貴ペア・・・・ベスト16

女子 相楽亜弓・小林円香ペア・・・・ベスト8

女子 安田舞帆・川田芽依ペア・・・・ベスト16

その他、須三中と合同チームで戦った野球部（男子）、バレーボール（女子）、卓球男子、ソフトテニス男女の各団体、そして個人ともに善戦するも1、2回戦や予選リーグ敗退となりました。落ち込んではいられません。まだまだこれから、頑張れ長沼中！！



## ○校内体育祭～学校が笑顔であふれ学級が一つになって～



10月4日（水）、3校時から午後にかけて「校内体育祭」を実施いたしました。

種目は長縄とび2種目（八の字、大縄）、二人三脚、綱引き、全員リレーの5種目で、学年関係なく6学級の対抗戦で実施しました。全体的には、もちろん体格や体力に勝る

3年生が有利ですが、中には3年生に2年生が勝利する場面もあるなど、どの学級も自分たちの勝利を信じて楽しく各競技に参加していました。その結果、3年1組が見事に優勝を果たしましたが、それぞれの学級が一つになって笑顔で楽しむ姿を見ると、順位よりも楽しんだ者が勝ち、つまり参加した生徒全員がそれぞれに勝ったような、充実したひとときでした。

総合順位は以下の通りです。

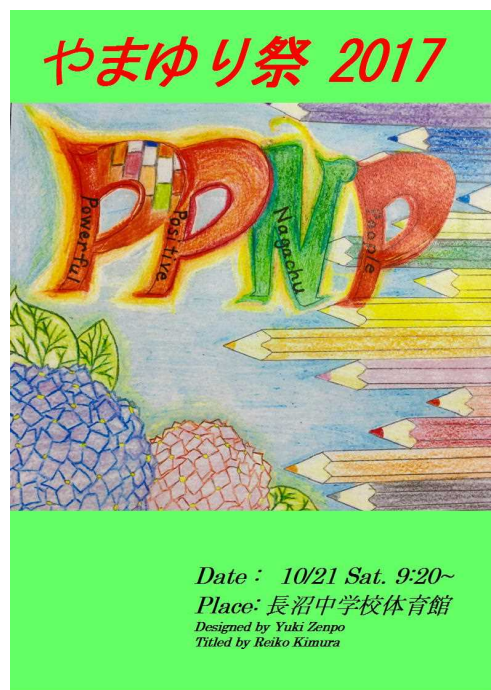
1位：3の1      2位：3の2      3位：2の2

## ○「やまゆり祭2017」

いよいよ10月21日(土)に、校内文化祭「やまゆり祭2017」を以下の日程で開催いたします。

今年は、学校体育館を会場に、PPNP(パワフル・ポジティブ・ナガヌマ・ピープル)のテーマのもと、力強く前向きな発表で、来ていただいた長沼地区のすべての皆様に元気にしたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、お誘い合わせの上、「やまゆり祭」に足をお運びください。

- ・ 8:40～ オープニングセレモニー
- ・ 9:05～ 学級旗コンクール
- ・ 9:20～ 作文発表
- ・ 10:00～ 合唱コンクール ※昼食休憩
- ・ 12:40～ 1年生ステージ発表
- ・ 13:10～ 2年生ステージ発表
- ・ 13:40～ 3年生ステージ発表
- ・ 14:10～ プチ自慢(有志による発表)
- ・ 14:35～ 表彰・フィナーレ ※翌日の衆院選挙のため、早めの撤収に協力ください。



## ○後期任命式～生徒会活動・専門委員会のリーダーとして～

今年度の後期生徒会活動の中核をなす各専門委員会は、新委員長を中心に活発に活動を開始しています。11日(水)はその任命式を実施いたしました。新しい委員長は次の通りです。

規律(安田雄飛)、文化(佐藤綾花)、交通安全(渡邊拓未)、保健(小林円香)、環境(半澤蒼人)、放送(金澤歩花)、体育(佐藤優芽)、図書(小林芽依)、給食(熊田真衣)、応援団(吉田雄唯雅)

## ○高校説明会～それぞれの高校の先生から直接説明を聞いて～



10月は2回に分けて高等学校説明会を開催しました。10月5日(木)はその1回目で、清陵情報、須賀川、岩瀬農業、長沼、須賀川桐陽の先生方にそれぞれの高校の特色や学校行事、主な進路先などをご説明いただきました。3年生は資料に目を通したり、メモをとったりしながら真剣に話を聞いていました。また、3年生だけではなく2年生も参加し、自分の進路について考えるいい機会になりました。※2回目は12日(木)に実施いたしました。

## ★大切にしたい言葉(10) 「あの子の光 この子の光」

私たち教師は、「あの子にも、この子にも光をあてよう」という考えで教育活動に取り組んでいるところがありますが、しかしそれは間違っているというわけではないけれど、実は子どもそれぞれに自ら放つ光がもともとあって、「あの子の光 この子の光」をもっともっと大きく輝かすことが、考え方としてはより良いのではないかと思います。「十人十色」とはよく言ったもので、「この子はどんな色の光を放っているだろうか?」「この子はどんな光を放てる力を持っているのだろうか?」という目で、長沼中生を見つめ輝かせていこうと思います。